

令和 4 年度 園評価書

園番号

58

園名

清水待機児童園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

| 1 教育・保育目標 | 2 重点目標 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策 (来年度の具体的な取組目標等) |
|--------------|---------------------------|---|--|------|-------|------------|--|
| 愛されてのびのびと育つ子 | ありのままを受け止めてもらい、自分の思いを表現する | ・子ども一人一人が、ありのままを受け止めてもらい、自分の思いを言葉やしぐさで表現している | 保育者が子どもの一人一人の思いに寄り添い関わることで、言葉やしぐさで自分の思いを表現する姿が多く見られるようになった | A | | | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き子ども一人一人の“ありのまま”を受け止め、気持ちに寄り添いながら関わり、子どもが思いを表現できるようにしていく 各年齢、発達に沿った遊びの保障をする為に、場、時間の確保や職員の配置を調整していくようにする 待機児童園の特性から、毎月のように子どもの入退園があるため、一人一人の生活リズムを把握し、丁寧に関わることで安心して生活ができるようにしていく |
| | | ・安全、清潔かつ活動意欲が満たされる環境のもと、子どもが自ら関わり遊んでいる | 安全点検や消毒・清掃を丁寧にすることで、安全・清潔な環境を保つことができている。その中で子どもが興味のあるものに自ら関わり遊んでいる姿が見られる | A | | | |
| | | ・生活リズムが安定し、気持ちよく一日を過ごしている (新入児は、個の生理的リズムに沿った生活から少しずつ安定していく) | 登園時の保護者からの聞き取りや、連絡ノートから、子ども一人一人の生活リズムを把握し、その子に合わせて丁寧に関わることで安定した生活を送ることができている | B | | | |

II 各領域に関わること

| 大項目 | 中項目 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策 (来年度の具体的な取組目標等) |
|------------------|----------------------------|--|---|------|-------|--|---|
| 1 こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | ・子ども一人一人の発達や個人差に配慮した個別計画による保育を実施している | 毎月、子ども一人一人の発達や興味に合わせた個別計画を作成しクラス担任間で共有後、計画に沿って保育がなされている | A | | <ul style="list-style-type: none"> ・入園でき、仕事復帰や仕事のめどがたちよかったです。ありがとうございます ・まだ入園して日が浅く、園の様子がわからないのですが、子どもは安心して過ごせていると思います。先生方に感謝いたします ・まだ話したりすることはできませんが、保育園に登園すると自ら教室に入ろうとする姿や迎えに行った際の満足気な表情を見ると保育園を楽しんでいると感じとれます。いつもありがとうございます。こちらに入園できて本当に良かったです ・毎日嫌々よく登園させてもらっているのは、先生方のお陰だと心から感謝しております。担任の先生でなくても、日頃の様子を教えて下さったりと皆さんで見守って頂けているのだと思います。給食も色々と考えて下さり、家庭でも参考にになります ・他の園では“instaguram”を使用して子供達の写真と様子を保護者と共有したりネット上で保護者のみが見れる状態で写真と様子を公開したりしていて、公立の園では個人情報観点から難しいとは思いますが、どうかでの写真掲示だけでなくスマホ等でも見れるとうれしいです | |
| | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 | ・在園時間の異なる一人一人の子どもの生活リズムを保障している ・子どもの思いに寄り添い、早番、遅番時の保育内容を工夫している | 子どもの生活リズムを登園時の聞き取りや連絡ノートから把握し、時間差での対応や1対1の個別対応などをし、保育している。また、早番・遅番では、少人数だからこその遊びを提供し、安心して過ごせるよう配慮している | B | | | |
| | (3)環境を通して行う教育及び保育 | ・子どもの発達や興味関心に沿った玩具や教材の提供、自然を生かした環境の工夫を行っている | 今ある環境がその時の子どもの発達や興味に沿っているか定期的に話し合い、玩具の入れ替えをしたりや新しい教材を用意したり、自然物を取り入れたりなど、アイデアを出し合い環境づくりをした | B | | | |
| 2 安全管理・指導 | (1)事故防止・防災 | ・避難訓練、不審者訓練を実施するとともに、事故防止のためのヒヤリハットを記録し職員間で確認し合っている | 避難訓練、不審者訓練は計画通り実施でき、反省点や課題を検討し改善点を職員で共有している。また、ヒヤリハットは提出されたものを職員で確認し、期ごとにまとめた中から傾向を探り、繰り返すことがないように意識した | B | | | 色々な場面を想定した避難訓練、不審者訓練を行う中で課題を検討し、改善していく。ヒヤリハットやけがの記録を検査することで危険箇所の改善や職員の危機管理意識を高めるようにしていく |
| 3 保健管理・指導 | (1)健康教育の充実 | ・一人一人の視診を丁寧にを行い、体調の変化を見逃さないようにしている ・手洗いなど保育者が一緒にいきいになった気持ち良さを伝えている | 登園時の保護者からの聞き取りを丁寧にを行い、気になる体調については担任間で共有し、変化に気を付けるようにしている。手洗いは保育者と一緒に行い、きれいになったことを確認し、子どもに声を掛けている | A | | | 登園時の聞き取りや視診で健康状態を把握し、職員間で共有することで変化にすぐに対応できるようにする。清潔面は保育者が手本を示し一緒に行うことで気持ち良さを感じられるようにしていく |
| 4 特別支援教育・保育 | (1)支援体制づくりの推進 | ・一人一人の特性を理解し、援助の仕方を職員間で共有し実践している ・必要に応じ、専門機関との連携を図っている | 子ども一人一人の特性を職員が共通理解し、具体的な支援の手立てについては子どもの姿を捉えながら探り、職員間で共有している | B | | | 全職員で子どもの特性を共通理解し、同じ支援ができるよう、まづクラス会議を行い、その内容を職員会議で報告していく |
| 5 組織運営 | (1)組織体制の充実 | ・一人一人の力が集まり、大きな力となって園を運営していくという自覚を持ち、自分の役割を果たしている ・他の分掌の仕事内容も知る | 職員一人一人が自分の役割を自覚し責任を持ち進めることができた。また、他の職員をフォローする協力態勢ができていた | A | | | 職員一人一人が自分の役割を自覚し、責任を持って進めていく。担当者が全てを行うのではなく他の職員も一緒に行うことで他の分掌の仕事内容も知る機会を作っていく |
| 6 研修 | (1)研修体制の充実 | ・研修テーマ『“やってみよう”から“もつ”につながる援助』に沿って園内研修を行い、学んだことを保育に活かしている | フォトカンパレンスや環境図作成を基に職員間で意見交換ができ、研修日よりや掲示物を通して振り返ることができている。研修で学んだ事を保育に取り入れたが、実践後の遊びの変化を検証し職員間で共有する時間をもっと必要であった | B | | | 年度初めにテーマ、手立てについて十分話し合い全職員が理解できるようにする。また、研修を進めていく上では、話し合い以外の意見交換の方法も考え、研修内容を企画するようにしていく |
| 7 教育・保育環境整備 | (1)教育・保育環境の充実 | ・早番点検、毎月の安全点検、公園で遊ぶ前の点検を行っている ・子どもの発達や興味関心に沿った環境構成ができていく | 早番点検、毎月の安全点検はきちんと行われ、安全な環境になっている。散歩時はチェックリストに沿って事前の下見、遊ぶ前の点検を行い、安全に出掛けることができた | B | | | 日々の遊びの変化を捉え、子どもの発達や興味に沿った環境図を作成しながら、環境を作っていく。また引き続き毎月、毎週、毎日の点検により、安全な環境を整えていくようにする |
| 8 家庭との連携・協力 | (1)家庭教育への支援機能の充実 | ・送迎時や連絡ノートにおいて保護者と子どもの姿、成長を伝え合っている ・園、クラスだよりの発行、遊びの様子を掲示して子どもの姿を伝えている | 連絡のノートのやりとりや、登降園時の会話で、子どもの遊びの姿や成長した様子を伝え合っている。園、クラスだよりの発行の他、日々の子どもの様子を保護者が見て楽しくわかりやすい内容となるように写真を添付して廊下に掲示している | B | | | 今後も登降園時の会話や連絡ノートのやり取りで子どもの姿や成長を保護者と伝え合う。また、日々の遊びの様子を保護者に分かりやすく伝えるよう写真を添付していき |
| 9 近隣の学校との連携 | (1)近隣の園との連携の推進 | ・近隣の園児との交流の機会を設けている(感染症の状況に応じて) ・公開保育を実施すると共に、他園の公開保育に参加し、交流を図っている | コロナ禍であっても感染状況をみて、可能な限り職員は近隣の園の公開保育に参加し、交流を図ることができた。園児との交流は難しく、実施できなかった | B | | | 今年度同様、職員は近隣の園の公開保育に参加し学びを自園の保育に活かしていく。園児との交流については、特に2歳児は実施できるよう感染症の状況を見ながら連携園と連絡を取り合い計画する |
| 10 地域との連携 | (1)信頼される園づくりの推進 | ・待機児童解消のため、積極的な受け入れをしている ・園庭横を通行する方、散歩時に出会う方への挨拶を欠かさず行っている | 待機児童解消のため、職員の態勢を整え、子どもの受け入れをしている。また園庭の横を通行する方、散歩で出会う方には積極的に挨拶をすることで、子どもも挨拶を真似たり、手を振ったりしている | B | | | 来年度も、職員の体制を整え、子どもの受け入れをしていく。挨拶については子どもの見本になるよう、職員が積極的にしていき、近隣の方と良好な関係をつくっていく |